

境づくりを使命としたいものである（シュプール10号1982年）」の、柴田先生の言葉を力に、益々スキースポーツの普及発展に尽力したいものと考えています。

〈参考（引用）文献〉

- ・北海道スキー連盟教育本部「北海道スキー指導教本（2013年）」
- ・栗林薫編著「北海道一般スキー八十年の歩み（1991年）」
- ・編集委員「柴田信一先生遺稿集（1996年）」
- ・小原哲郎編著「シー・ハイル（1962年）」
- ・北海道スキー協会機関誌「シュプール」

〈高橋次郎先生・柴田信一先生顕彰レリーフ〉

——高橋次郎先生——



1900年小樽生まれ、町立小樽商業学校（現小樽商業高校）・小樽高等商業学校（現小樽商大）を経て東北帝国大学（現東北大）卒業、同大学助手の後、母校小樽高商の教授。

ハンネス・シュナイダーのアルベルグスキー術の研究に没頭。後年、文部省から派遣されベルリン大学留学中、シュナイダーの指導を経て理論を深め、日本を代表するスキー理論家としてスキー界を啓蒙した。

昭和11年、冬季オリンピック日本選手団総務。昭和14年、第1回指導者検定講習会委員長。SAJ技術委員長・理事・副会長。北海道スキー連盟会長。北海道体育協会副会長。

——柴田信一先生——



1906年小樽に生まれ、アルペン競技において全道・全国に覇を競う。SAJアルペン部長・基礎委員長・教育部長。小樽スキー連盟会長。北海道スキー連盟理事・一般スキー技術委員長・教育部長・副会長・顧問。日本スキー指導員会初代会長。北海道スキー指導員会第三代会長。第6回（1941年）インタースキー視察の折、オーストリア国立スキー学校長クルッケンハウザー教授から親しく指導を受け、日本のオーストリアスキー術の正しい普及発展に寄与。第7回インタースキー日本代表として参加、世界の技術の傾向を分析し、“切り込みターン”“幻のターン”を追い続けた。